

ヘルスケアFM研究部会

病院におけるSDGsの 取り組みに関する考察

「すべての人に健康と福祉を」を軸に17ゴールへ展開

この数年で、ホームページなどでSDGsへの取り組みを公表する医療福祉施設が増えた。今まで本業以外に目を向ける余裕がなかった医療福祉関係者は、筆者の森も含めてだが、SDGsとは社会や地球環境の問題であり、医療業界では積極的に取り組むのは難しいと思いついてきた。そして、世の中の風潮に対し疎外感というか、少し申し訳ない気持ちでいた。

ところが、SDGsの認知度が社会全体で上がり、理解が進んでくると、その気持ちが切り替わる。「3.すべての人に健康と福祉を、が、あるじゃないか」。つまり、地球環境などと言われるとピンとこないが、健康と福祉を中心に据えてみれば、ひとりも取りこぼさない活動の王道を行っている。また、医療福祉業界が存続していくくみへの課題感も強く、地域連携や組織づくりなど、日頃からさまざまなチャレンジを行っている。

SDGsに向き合った医療施設では、今まで試みたチャレンジが17のゴールを指標にするとどれに当てはまるか現状を整理している。公表した内容を概観すると、「貧困をなくす」「質の高い教育」「ジェンダー平等」「働きがい」への対応に厚みがあり、対応事例がわかりやすく報告されている。

一方で、診療ガイドラインを作成するような立場の医療者も「治療」だけでなく「健康」や「環境」に着目している。検査の数値を対象とした治療だけでなく、数値化の難しい健康、ウェルビーイングまでスコープを広げなければ、昨今の診療を定義できないのではないか、と論じる医師もおり、環境・ヒーリング・市民参画といった要素を診療に盛り込む動きも見られる。

かつてナイチンゲールは病院の環境改善を行い、死亡率を下げた。病棟だけでなく、組織、労務にまで言及し、あるべき病院の姿を追求した活動に、病院FMの原点が感じられる。

市民の健康を総合的に捉える観点からの試み

病院におけるSDGsの基本を考えると、市民の健

部会長 **森 佐絵**
 もり さえ

清水建設株式会社
 ビジネスソリューション部 主査
 認定ファシリティマネジャー



部会員 **加藤 彰一**
 かとう あきかず

エフエムメトリクス 主宰
 登録建築家
 認定ファシリティマネジャー



康を総合的に捉える観点が欠かせない。ファシリティマネジメントの観点からSDGsの取り組みを考えるならば、ヘルスケア施設のあり方や、その施設デザインが医療に与える効果や影響について考慮する必要がある。

ファシリティマネジメントフォーラム2023のヘルスケア研究部会講演では、加藤より「病院におけるSDGsの取り組みに関する考察」というテーマのもと上記の観点を述べた。SDGsの17のゴールは相互に結び付けられており、健康と福祉のゴールを目指したとしても、達成のプロセスでは経済・環境・社会問題にも積極的に取り組む必要があるとして、注目事例を紹介した。

・イネープリング・ファクターとSDGs

横浜市立大学先端医学研究センター武部貴則教授らが提唱するイネープリング・ファクターとその実践事例、それを促進する医療×デザイン人材を育成している。

・病院におけるヒーリング環境

テキサスA & M大学建築学科のRoger Ulrich教授が1980年代にScience誌に発表した論文を紹介。窓から緑が見える病室では入院期間や鎮痛薬の使用量が少ないなど、ストレスを緩和する効果のあるものを支援的デザインと定義した。

・ヒーリングアートが療養環境にもたらす効果

三重大学加藤彰一研究室では、ウェイファインディングにヒーリングアートがもたらす効果に関して研究を行い、日米のこども病院や施設で実施されている、動物や絵本を使った満足度向上について分析した。

以上を含むいくつかの事例のほか、さらに、2030年に向けて10年を切った今日、これまでの評価と、SDGs達成に向けたPDCA活動の必要性とその方法についても提言を行った。◀